

[様式 2]

提案書	
技術分野	④
提案件名	建屋内止水工に適した充填材料
提案者	大成建設株式会社
<p>1. 技術等の概要</p> <p>本提案技術は、水中不分離性、自己充填性に優れた下記の 2 種類のセメント系材料を建屋内の充填材として適用するものです。水中不分離性コンクリート(モルタル)の適用を基本としますが、充填箇所を部分的に限定したい場合には、可塑性グラウト材を適用します。</p> <p>1) 水中不分離性コンクリート (モルタル)</p> <p>水中不分離性コンクリートは水中不分離性に優れており、流水中でも施工可能です。セルフレベリング性を有しているため自己充填性にも優れた材料であり、充填箇所が狭隘、および複雑な構造部位の場合は粗骨材を除いた水中不分離性モルタルを適用します。</p> <p>2) 可塑性グラウト材</p> <p>自立性を有しながらも若干の圧力で容易に変形する、いわゆる可塑性を有するグラウト材であり、充填箇所をある範囲に限定したい場合に適用します。水中不分離性に関しては、水中不分離性コンクリートと同等の性能を有しています。</p>	
<p>2. 備考</p> <p>・開発・実用化の状況</p> <p>1) 水中不分離性コンクリート：明石海峡大橋 3P 主塔工事ほか、実績多数あり。</p> <p>2) 可塑性グラウト材：ボスポラス海峡横断沈埋函トンネルの基礎地盤構築など。</p> <p>・開発・実用化に向けた課題・留意点</p> <p>1) 水中不分離性コンクリート</p> <p>土木学会コンクリート標準示方書〔施工編〕において、水中不分離性コンクリートの水中流動距離は 5m 以下を標準とされており、これを大きく超える長距離流動時の充填性や硬化後の品質等については、施工実験等により事前に確認する必要があります。</p> <p>2) 可塑性グラウト材</p> <p>本材料の特性上、充填中は加圧条件下となるように充填箇所近傍にグラウト配管する必要があります。また、圧縮強度は 1N/mm² 程度であり、コンクリートに比較して低強度な材料であることに留意する必要があります。</p> <p>・その他</p> <p>1) 水中不分離性コンクリート</p> <p>関連特許は無し。補足資料として、関連資料 1 を添付。</p> <p>2) 可塑性グラウト材</p> <p>・関連特許：特許 2001-008104, 特開 2011-106178</p> <p>・補足資料として、関連資料 2 を添付。</p>	